令和５年度　授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校

1　学校として目指す授業

・体験や事実、根拠に基づいた学習活動を展開し、生徒自らが課題解決する授業　・学習のねらいを明確にした計画的で見通しのある指導を行い、生徒が学習の意義や価値を実感できる授業

2　生徒の現状

（1）「全国学力・学習状況調査」の分析（中学校３年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「書くこと」において全国平均を上回ったが、その他の領域は全国平均を下回った。・数学科では、「数と式」の選択式が全国平均を下回っているが、全体的には全国平均を1.5％上回った。・英語科では、聞くこと、読むこと、書くことの全ての領域で国の平均を上回っているが、問題形式では記述式のみ国の平均を下回っている。	・生活習慣では、毎日朝食を食べている94％、毎日同じくらいの時刻に寝ている81％、毎日同じくらいの時刻に起きている91％、と比較的規則正しい生活を送っている。学習に対しても、先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますが79％となった。

（2）東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析

・授業の内容に対する理解度は、英語75％、理科79％、数学83％、社会87％、国語94％となった。・得意と感じる意識も理解度に応じて英語42％～国語54％となっている。・学習の動機としては、しっかり考えられるようになりたい気持ちが強く、86％と一番高かった。学習の進め方としては、集中して学習に取り組んでいる83％、学習の途中で、分からないところやできないところはどこかを考えている85％、最も高かったのは、大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにしている88％である。

（3）　清瀬市「学力調査」の分析

・数学科では、知識・技能の観点である基本的な計算はほとんど全国正答率を上回っているが、方程式の解法は３％下回っている。また、関数・図形・統計分野では、おうぎ形の面積や正しい説明を選択する問題などに苦手意識をもつ傾向が見られる。
・国語科では、基礎・活用ともに全国正答率を上回り、特に漢字を読む問題では、95％以上の正答であった。一方で、文法や語句に関する事項の問題では、全国正答率・目標値を４％下回っている。また漢字や文章を書く問題になると、無答率が増える傾向がある。

（3）　その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
東京都統一体力テストでは、男子は全国平均、東京都平均より低い水準にあり、測定種目の中では、立ち幅とびは平均を上回ったが、反復横とび・持久走が低い傾向にある。女子は全国平均より低く、東京都平均より高い水準にあり、測定種目では立幅とび・上体起こしは平均を上回ったが、反復横とびが低い傾向にある。ラダーやミニハードルなどを使った素早い反応や動きが必要な運動、なわとびやエアロビクスなどねばり強く続けていく運動を取り入れていく必要がある。

3　生徒の学力・学習状況等の課題

・複数の文章や資料を基に「これを伝えたい」という意欲を喚起し、「自分の考えを適切な語句を使って整理して伝える」という能動性を持たせた体験的な学習が求められる。
・問題を解決する際に必要な情報を主体的に見出したり、解決に向けた過程や結果を振り返って事柄が成り立つことを見出し考えたりする学習が求められる。
・日常的な話題や社会的な話題について、これまでの経験や知識と結び付けて考えを広げたり、深めたりすることが求められる。

4　学校全体の授業改善の視点

相手を意識しながら、自分の考えやその理由を明確にして、発信したいと思わせる授業づくり
・「授業で考えが伝わるように工夫して発表したか」の問いに肯定的だと、学力調査の正答率が高いことから、発信する力の育成を授業改善の視点とする。

【授業改善推進プランの活用法】
①「１　学校として目指す授業」を設定する。
　※学校経営方針との関連を確認すること。
②「１　学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「２　生徒の現状」に，まとめる。
③「２　生徒の現状」を基に，学校全体の課題を焦点化して，「３　生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
④「３　生徒の学力・学習状況等の課題」を基に，「４　学校全体の授業改善の視点」を設定する。
⑤「４　学校全体の授業改善の視点」を基に、「５　各教科における授業改善の方策」を設定する。　→　教育指導課へ提出する。
⑥12月末に実施状況を評価し、３学期以降の指導に生かす。
　評価　◎…実施した。　○…一部実施した。　△…未実施

5　各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1学年	文章の読み取りを行う際には、「印象」から読解を進めるのではなく、記述を根拠する授業構成を行う。		ICTを活用し資料提示をわかりやすくする。記述問題では解答に対して改善点をクラスで考え、記述への抵抗感を減らす。		課題解決のための基本的な知識を定着させ、自身の考えを記述できる力を高めていく。		実験・観察活動において情報収集の仕方、仮説を特に大切にしていき、話し合い活動での他者の意見に多く触れ活動を行う。		歌唱での表現をもとに、鑑賞や器楽の体験につなげ、共に話し合い、工夫する場面を増やす。		少人数の鑑賞活動を増やし、作品のよさや美しさについての話し合いをする場面を設定する。		男女共習を活かしたグループ編成を行い、教え合いや話し合いの場面を設定する。		道具や機械の使用方法や授業規律を徹底し、安全に作業できる環境を整える。		対話と発表の機会を増やす。準備時間を短縮しても対応できるように練習を重ねる。		教材を使って考えさせた項目の内容を実生活に般化させ自分たちの生活と関連させて捉えさせる。	
2学年	自身の考えを表現させる際に、考えを引き出す問いを重ねることで自分が何を考えているか気づかせる。		基礎基本の徹底を行う。思考力や表現力を高めるため言語活動を単元ごとに取り入れる。		各分野、基礎来な学力をしっかり定着させ、自分の考えを記述できる力を継続して高めていくようにする。		基本的な知識技能の定着を推進し、振返り活動の活性化を行う。学習状況に応じ、自然の事物減少の考察活動を実施する。		鑑賞や器楽の学習を歌唱表現につなげられるよう、話し合いや工夫させる場面を増やす。		拡大投影機や個別指導で技法を丁寧に教え、技術力や発想力を高める活動をする。		小グループでの教え合いや話し合いの場面を増やし、より主体的に活動できるようにする。		日常生活に使える技を教え、各分野で興味関心が持てる活動を行う。		話すこと(やり取り)について、流暢さと正確さの両立を目指しながらの指導を目指す。		各道徳項目において、生活とのかかわりについてともに考えさせ、深めさせる。	
3学年	文章や問題を精読し、要点や問われている内容を整理してから回答させる。		基礎基本の徹底を行う。思考力・判断力・表現力を高めるための活動を取り入れる。		課題解決のための知識を重要視しながら、基本的事項の定着を目指す。		単元について関連事項の学習を行い、同じ内容を複数回取り扱うようにする。		合唱表現をさらに高め、より良い表現を工夫するための意見を出し合う取組を行う。		生徒自らが計画を立てて制作できるように、板書やスライドで時間を意識させる。		生徒に見本を行わせたり、教え合いの場を多く作ったりして、できる・わかる感覚を全員が感じられるようにする。		自ら課題を設定し、解決する授業を取り入れる。授業規律を徹底し安全に作業ができる環境を整える。		４技能５領域のバランスを考え課題を設定する。また振り返りシートを活用して、学習内容の定着、および書くことへの抵抗感を減らしていくことを目指す。		話し合いの方法の工夫やICT活用を通じて、全体での意見共有がしやすくなるように工夫する。また、意見交流の活発化を目指す。	